多職種連携	多職種連携実践演習

［演習］　第3学年　前期　選択　2単位

《履修上の留意事項》１.この講義は令和8年4月8日（水）、4月9日（木）、4月10日（金）に実施する。原則的に単位取得のためにはすべての講義・演習に出席しなくてはならない。
２.全学部（専門学校含む）混成のグループで演習・話し合いをおこなう。
３.対象者・家族らが暮らし、ケアを受けている医療福祉施設や自宅、自助サークル活動などに、大学よりオンラインでリアルタイムに訪問・参加し演習をおこなう。そのため体調管理、身だしなみ、言動に充分留意すること。教員が不適当と判断した場合には、演習に参加させない。その場合は、「失格」として扱う。
４.履修を希望する者は、本科目に関する事前ガイダンス(グループ、持ち物確認など)に出席する必要がある。日程（4月6日予定）・場所については掲示版、i-portal等で連絡する。

《担当者名》薬学部：○早坂敬明、山本隆弘、木村治、岩尾一生
歯学部：○飯田貴俊、永易裕樹、菅悠希、原田文也
看護福祉学部：○川添恵理子　e-kawa@hoku-iryo-u.ac.jp、竹生礼子、〇巻康弘　maki@hoku-iryo-u.ac.jp 、奥田かおり、橋本菊次郎
心理科学部：○関口真有
リハビリテーション科学部：○澤田篤史、○本家寿洋、○葛西聡子
医療技術学部：○近藤啓
歯科衛生士専門学校：○岡橋智恵

【概　要】
多職種連携とは、多様なニーズをもつ対象者に対して、質の高いケアを創造するために、専門職を含む対象者に関わる全ての人々が、対象者・家族とともに共有した目標に向けて働くことである。保健・医療・福祉の現場において、対象者・家族のQOL(Quality of Life:生命・生活・人生の質)の向上のために対象者・家族とともに多職種がケアや社会的課題の解決が目指される。現代の複雑で多様化した保健・医療・福祉の課題が生じる社会において、一人の専門職がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決するということは困難である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門職が協働することが必要とされる。
本演習は、保健・医療・福祉を中心とする多様な分野と連携・協調して行動し、社会で活躍できる専門職になるための能力を養うために、多職種連携の実際の場面を取り入れている。具体的には、①地域包括ケアにおける専門職の活動を、多職種連携による対象者理解の観点に注目しながら同行訪問・オンラインで見学する。②対象者理解を進めるために、専門職、対象者・家族に対して家庭訪問も交えて聴き取りを行う。③多職種が連携して対象者の全体像をICFモデルを用いてとらえる。④得られた情報をもとに自分の専門とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する考えをまとめる。

【学修目標】
１）コミュニケーション力をつける：チームメンバー、対象者、家族、他機関の人などの多職種連携に関わる人々との交流を通して相互理解に努めることができる
２）倫理的行動ができる：対象者や多職種および関係者の尊厳を守り、人間として誠実で信頼できる行動をとり、敬意をもって、連携・協働することができる
３）他者理解力をつける：チームメンバー、対象者、家族、他機関の人、住民など多職種連携に関わる人々に対して、関心を向け、理解しようとすることができる
４）創造的課題解決力をつける：多職種で対象者と家族の支援について検討する際、主体的・自律的に課題解決に向けて考えることができる
５）省察力をつける：チームメンバー、対象者、家族、他機関の人など多職種連携に関わる人々とのやりとりについて振り返り、気づいたことをもとに自己の姿勢の改善を考えることができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ∫ 2	オリエンテーション・講義	・講義全体の目的と内容、進め方の説明 ・演習の流れおよび演習態度（服装・個人情報の保護） ・グループ作り、役割決め ・講義「地域包括ケア」「ICF」	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			巻　康弘 奥田かおり 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵
3	グループワーク・ 　同職種ミーティング１	◯自らの職種のアセスメント枠組みとICFの連動性を確認する。 〇とらえた情報、確認する点、疑問点、訪問時に対象者、家族および専門職に対して質問する内容の検討 ◯同職種ミーティング１：同一学科グループごとに教員を加えてミーティングをおこなう。	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵
4 ∫ 5	グループワーク・ 　カンファレンス1	◯家庭訪問する対象者に関する資料の読み込み・ICFワークシートの作成 ・職種別の検討：とらえた情報、確認する点、疑問点、訪問時に対象者、家族および専門職に対して質問する内容の検討・作成 ・多職種グループによる検討：各職種からの意見の共有。ICFに基づき、理解できた情報の整理・解釈・分析。専門性を活かして職種ごとにとらえた情報・分析・解釈をもちより、統合。 ◯訪問時に確認する点、疑問点、演習時に対象者・家族、および専門職に対し質問する内容の作成 ◯カンファレンス１：演習グループごとに教員を加えてケースカンファレンスをおこなう。	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵
6 ∫ 7	家庭訪問・ケア場面見学	‹対象者への聴き取りと在宅ケア提供場面を見学する› ◯演習前ブリーフィング ◯多職種連携協働によりケアがおこなわれている現場を、グループごとに同行訪問またはオンラインで見学する。 ◯対象者・家族、および専門職に対して準備した質問をもとに聴き取りをおこなう。	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
			岡橋智恵
8	グループワーク・ 　同職種ミーティング2	◯個人でまとめをおこなう。ICFを修正する。 ◯学科別に見学したケースの報告と専門的な対応および多職種連携協働のあり方について、教員を交えて話し合う。 ◯学科別に、地域包括ケアにおいて自分が目指す職種および他の職種が果たす役割について、話し合う。	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵
9 ～ 10	グループワーク・ 　カンファレンス２	◯グループにもどり、自分の専門的な視点からとらえた意見を交換する。 ・各専門職の視点から、理解を深めた対象者の状況をICFワークシートに盛り込み、ICFを修正・発展させて、対象者の全体像をとらえなおす。 ・対象者がどのような多職種の連携によって支えられて生活しているのかについて、訪問の場面以外にも視野を広げて検討する。 ・対象者の全体像を踏まえ、目指す姿（共通の目標）を設定する。	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵
11 ～ 15	発表会 グループワーク・ カンファレンス３	◯グループごとに学んだことをICFをもとに簡潔にパワーポイントにまとめる。 ◯グループごとに発表する。 ◯学科ごとに分かれて：今回の演習で学んだことから、地域包括ケアにおいて自分が目指す職種および他の職種が果たす役割について、話し合う。 ◯多職種グループにて：学科ごとの話し合いを踏まえて、地域包括ケアにおける多職種連携のあり方をディスカッションする。 ◯レポートを作成する（評価対象）	早坂敬明 木村 治 岩尾一生 山本隆弘 飯田貴俊 永易裕樹 菅　悠希 原田文也 川添恵理子 竹生礼子 巻　康弘 橋本菊次郎 関口真有 澤田篤史 本家寿洋 葛西聡子 近藤　啓 岡橋智恵

【授業実施形態】
面接授業
※授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】
･演習状況および提出物をもとに総合的に評価する
･演習目標到達度７０％、記録物３０％

【教科書】
教科書１：上田敏　編　ＩＣＦの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか　KSブックレット　２００５

【参考書】
参考書1：北島政樹　編　「医療福祉をつなぐ関連職種連携」　南江堂　２０１３
参考書2：埼玉県立大学　編　「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」　中央法規　２００９

【備考】
その他：学部混成のクラスを編成して授業を行う。

【学修の準備】
事前に指示された以下について予習・復習をおこなうこと。ICF、地域包括ケアシステムを概説する文献を読む。関連する用語・制度について調べる（例：地域包括ケア、後期高齢者、介護保険、居宅介護、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、退院支援、退院調整、ケアプラン、介護支援専門員(ケアマネジャー)、ＣＧＡ、ＩＣＦ、褥瘡、オレンジプラン、訪問歯科事業など）。演習するケースに関する保健・福祉・医療に関する事項について調べる。（予習・復習4時間）

【復習】
各回の終了後に、学習内容を自分の言葉でまとめる。

【演習施設】
　大学の教室と本学地域包括ケアセンター、対象者の居宅をオンラインで接続して演習をおこなう。

【ディプロマポリシーとの関連性】
（DP1）生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。
（DP3）保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。
（DP4）臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
（DP6）臨床検査学領域における様々な問題や研究課題の発見と、解決に向けた科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】
　早坂敬明・木村治・岩尾一生・山本隆弘（薬剤師）、飯田貴俊、永易裕樹・菅悠希・原田文也（歯科医師）、川添恵理子・竹生礼子（看護師・保健師）、巻康弘（社会福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、橋本菊次郎（精神保健福祉士）関口真有（公認心理師）、澤田篤史（理学療法士）、本家寿洋（作業療法士）、葛西聡子（言語聴覚士）、近藤啓（臨床検査技師）、岡橋智恵（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】
医療人としての実務経験を活かして、臨床検査技師等として持つべき多職種連携医療の実践につながる教育を実施している。